

15 リニア中央新幹線に関連する基盤整備に対する支援について

【国土交通省】

《提案・要望事項》

国家的見地に立ったプロジェクトであるリニア中央新幹線を地域振興に結びつけるため、一般国道 153 号などのアクセス道路、リニア駅の関連施設等、リニア中央新幹線に係る基盤整備について、国による整備や地方負担に対する財政支援を行うこと。

【現況、課題等】

国土の大動脈となるリニア中央新幹線の建設は、国家的見地に立ったプロジェクトである。これに伴う駅関連施設、アクセス道路等の基盤整備は、主として地方が行うことになり、地方に大きな財政負担が生じる。このため、交付金事業等の十分な予算配分、地方負担に対する適切な財政措置、及び一般国道 153 号の権限代行等を求めるものである。

リニア中央新幹線開業に向けての流れ

- | | |
|--------------|--------------------------------------|
| 平成 23 年 5 月 | 国土交通大臣、J R 東海を建設・営業主体に指名
同社に建設の指示 |
| 平成 26 年 10 月 | 国土交通大臣による工事实施計画の認可 |
| 平成 27 年～ | リニア駅周辺整備・リニア関連の道路整備 |
| 平成 39 年 | 東京一名古屋間開業予定 |

【長野県内の取組】

○リニア中央新幹線に関連する基盤整備に関する取組

- 平成25年 7 月 「リニアを活かした『地域づくり勉強会』」の設置
- 平成25年 8 月 「リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」の設置
- 平成26年 3 月 「長野県リニア活用基本構想」を策定。基盤整備の今後の方針・取組について記載
- 平成26年 4 月 県に「長野県リニア中央新幹線地域振興推進本部」を設置し、リニア整備に関する全庁的な取組を開始
- 平成26年 5 月 飯田市が「リニア駅周辺整備基本構想検討会議」を設置し、駅周辺整備の検討を開始
- 平成26年10月 リニア関連道路整備について公表
- 平成27年 1 月 「地域づくり勉強会」最終回（地域振興や基盤整備の取組をとりまとめ）
- 平成27年 2 月 リニアを地域発展の原動力とするためのリニアバレー構想（骨子）をとりまとめ

○一般国道153号に関する国への要望活動

- 平成25年 3 月 一般国道153号の指定区間編入等に関する国土交通大臣要望
- 平成25年 6 月 一般国道153号の早期整備並びに指定区間編入等に関する国土交通大臣要望

【参考】

1 リニア関連道路として整備を目指す箇所

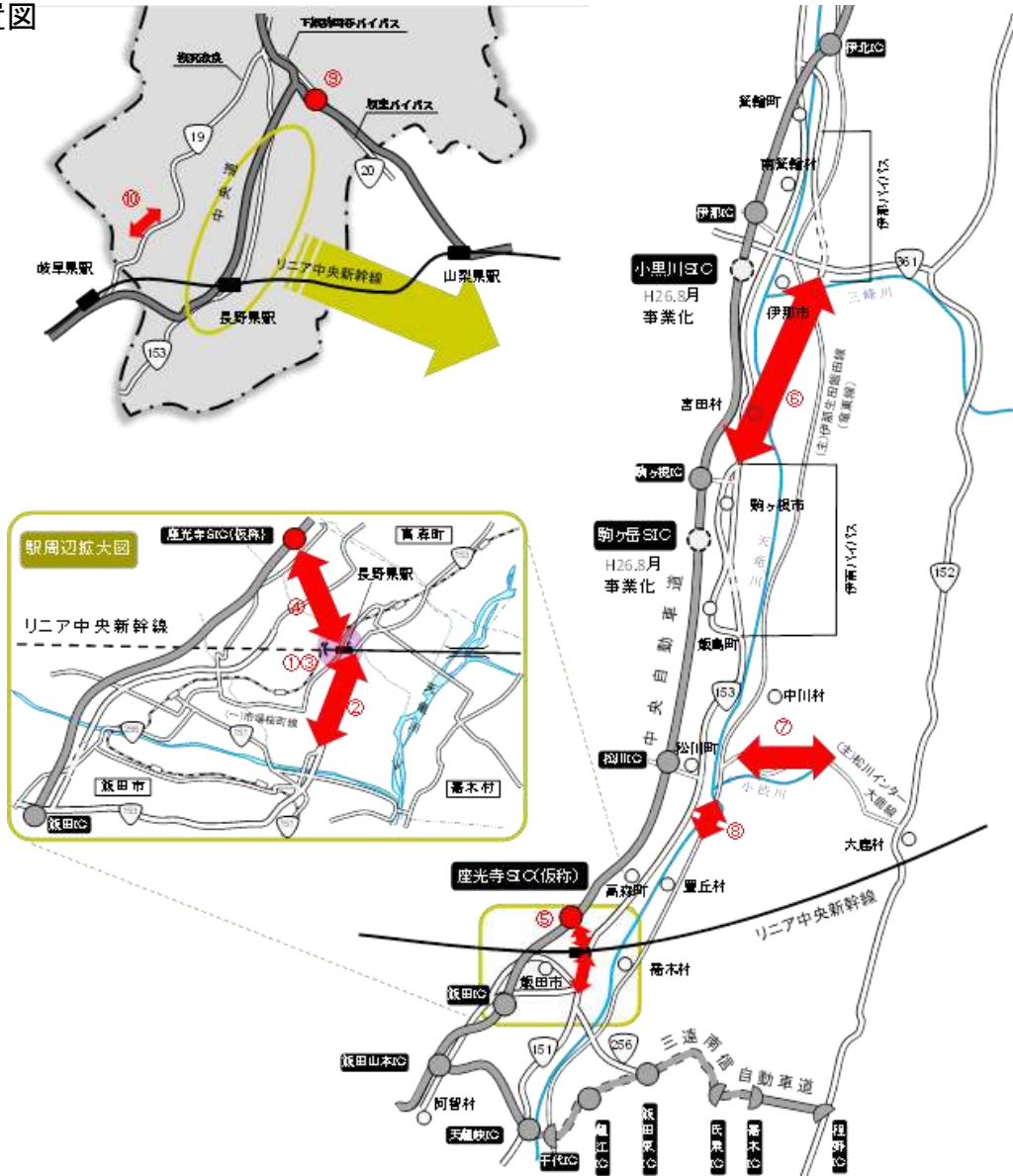
区分	番号	箇所	想定する整備主体
長野県駅の周辺整備	①	交通広場、駐車場等	飯田市
	②	(国)153号 飯田北改良	長野県
	③	(一)市場桜町線 飯田市上郷	長野県ほか
高速道路とリニアを一体化する道路整備	④	長野県駅～座光寺SIC(仮称)の道路新設	長野県、飯田市
	⑤	座光寺SIC(仮称)	飯田市ほか
	⑥	(国)153号 伊駒アルプスロード	長野県※1
JR東海のトンネル発生土運搬路確保に合わせた道路整備※2	⑦	(主)松川インター大鹿線 渡場～滝沢	JR東海と長野県で協議
	⑧	(主)伊那生田飯田線 松川町 宮ヶ瀬橋	長野県
リニア3駅活用交流圏の実現に向けた道路整備	⑨	諏訪湖SIC(仮称) 他周辺道路整備	岡谷市、諏訪市、長野県ほか
	⑩	木曾川右岸道路(読書～戸場ほか)	長野県

※1 長野県で調査を進め、整備主体はルート等が決定した段階で検討する。

※2 他の運搬路についても経路の具体化に合わせ、まずは、事業者であるJR東海が安全の確保を図ることを基本に、JR東海、道路管理者及び関係市町村で対応を協議する。

このほか、既に着手している事業についても、計画的かつ着実な実施が必要。

2 位置図



※未供用のIC名、SIC名は仮称

国においては、三遠南信自動車道(飯喬道路)、国道19号桜沢改良、国道20号坂室バイパス、下諏訪岡谷バイパス、国道153号伊南バイパス(権限代行)、県内の幹線道路網調査を実施中